

普通科における「生活産業基礎」の効果的な授業展開について
ーコミュニケーション能力の育成と進路実現を目指してー

千葉県立 ○○○○ 高等学校 ○○ ○○ (家庭科)

1 はじめに

平成25年度から施行される高等学校新学習指導要領では、「総則」の中で改訂のポイントとして、生徒の発達段階を考慮した「言語活動の充実」が述べられている。

また、高等学校「家庭科」では、主体的に学習に取り組む態度を養うため、「言語活動の充実」として次の2つを挙げている。

○子どもや高齢者、地域の人たちと触れ合い、他者と関わる力を高めていく活動の重視

○衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動、判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり最適な解決方法を探求したりする活動などの重視
本研究では、上記2点に焦点をあて、「生活産業基礎」の授業で実施している就業体験学習や外部講師による連携授業などによる効果的な指導法についての実践を行う。

言語活動は、知的活動だけでなく、コミュニケーション活動が基盤となる。しかしながら、自ら気持ちや考えを伝えることの苦手な生徒が本校には多い。本授業での実践で、生徒達が、地域の子どもや高齢者と直接関わることで、コミュニケーションの大切さや難しさを実感して欲しいと考える。

また、本研究では、就業体験と本校の進路指導で実施しているインターンシップ先との連携を含め、生徒個々の進路指導に結びつくような効果的な方法を検討していきたい。

2 研究計画

- (1) 本校生徒及び学校の状況
- (2) 指導内容の検討・計画
 - ア 生徒の意識調査
 - イ 本校の「生活産業基礎」の授業内容
 - ウ 本校のインターンシップ（進路部）との連携
- (3) 指導実践例
- (4) 学習後における意識調査及び考察
- (5) 考察
- (6) 今後の課題と展望

3 研究内容

- (1) 本校生徒及び学校の状況

本校は、昭和58年に創立された普通科各学年6クラスの中規模校である。JR佐倉駅より徒歩15分で、緑豊かで静かな環境の中で勉学に取り組むことができる。

生徒指導・進路指導の充実により、授業にも落ち着いて取り組めるようになってきている。特に、進路指導においては生徒一人ひとりが、将来を見とおした進路が計画できるように、きめ細やかな個別指導を行い、しっかりとした勤労観や職業観が身につくように指導している。

その結果として卒業生の進路決定率が9割という成果を上げている。

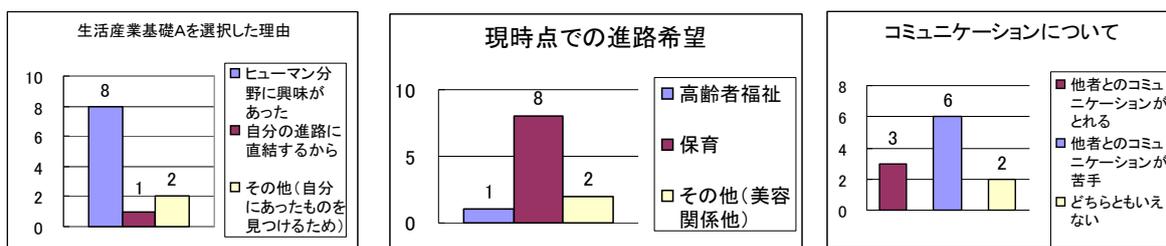
また、2年次から生徒の希望により、理系、文系及び情報コースの3類型に分かれる。生徒の多様な進路希望に対応するため、特に3年次の文系においては、選択科目を増やしている。情報コースでは専門科目にかなりの重点を置き、高大連携教育の協定を結んでおり、東京情報大学での授業等を実施している。

(2) 指導内容の検討・計画

ア 生徒の意識調査（事前）

対象 平成22年度3年生 「生活産業基礎A」選択者11名（男子4名 女子7名）

（単位 名）



「生活産業基礎A」は、特に保育分野への進路を希望する選択者が多い。また、「コミュニケーションをとるのが苦手だ」と考える生徒が多く、就業体験を不安に思う生徒もいる。苦手意識がある一方、進路を意識して選択している生徒が多い。3年生の進路決定時期において、「生活産業基礎」の就業体験をいかに進路選択に役立てるかが大きな課題である。

イ 本校の「生活産業基礎」（2単位）の授業内容（外部講師と就業体験に関わるもの）

「生活産業基礎」は、平成17年度から3年生文系クラスの選択科目として、2単位（連続授業）で実施されるようになった。衣・食・ヒューマン分野を総合的に学習していたが、平成21年度からは、「衣・食分野」と「ヒューマン分野」に分けて2講座展開で実施し、生徒の職業に対する意識を高め、進路実現に向けて導くことができるようにした。

【指導のねらい】		
各分野のスペシャリストである外部講師による授業を通して、職業に関するより専門的な知識と技術を学ばせ、職業観を育成し、進路実現に導くようにする。		
	生活産業基礎A（ヒューマン分野）	生活産業基礎B（衣・食分野）
1学期	生活産業基礎（A・B）について知り、職業との関連を学ぶ	
	【外部講師による授業】 (成田国際福祉専門学校) 実践例1 ①福祉全般について（2時間） （講義1時間・演習1時間） ②高齢者福祉について（1時間） ③保育分野について（1時間）	衣・食などの分野に関する仕事 【外部講師による授業】 ①パティシエによる授業 （日本菓子専門学校） ②スタイリストによる授業 （杉野ドレスメーカー学院）

1 学期	【事前学習・準備】 (実践例 2) 施設毎の事前説明会に参加 (各施設を訪問し 1 時間程度の説明会)	③フラワーアレンジメント (アトリエグリーンベル)
夏季休業中	【就業体験】 (実践例 3) ・保育園 (佐倉市立根郷保育園) ・高齢者施設 (佐倉ケアセンターそよ風)	お弁当献立の宿題 「佐倉」の特産物である、山芋の レシピの研究
2 学期	【就業体験のまとめ】 (実践例 4) (レポート・模造紙まとめ) 個人作品製作 (絵本・スポンジキューブパズル) 【発表会】 (実践例 5) 校内発表会 (就業体験・作品の発表) 外部講師を招いて発表会を実施 校外発表会 *平成 2 2 年度, 初めての試みとして, 成田国際福祉専門学校の協力を得て, 福 祉フォーラムでの生徒の発表を実施	被服製作 ・被服作品の製作・刺し子含む。 (弁当包み・箸袋) 食物分野の実習 ・お弁当献立のまとめと実習。 (コンテストへの参加) 【外部講師による授業】 ④被服製作実習 (モラ手芸) (杉野ドレスメーカー学院) ⑤日本料理の実習 (おせち料理) (武蔵野調理師専門学校)
3 学期	【まとめ】 * A・B とも実施 ・生活産業基礎を学んで得たものを考えまとめる。 ・職業との関連および意識調査	

ウ 本校のインターンシップ (進路部) との連携

本校では、2 年次に希望者を対象にインターンシップを実施している。体験先は、図書館・博物館・美術館・消防署・公民館・自動車整備工場・美容室など様々であるが、保育所・幼稚園・高齢者施設を選ぶ生徒が多い。

平成 2 2 年度に「生活産業基礎 A」を選択した生徒は、前年度進路部のインターンシップで、保育園、高齢者施設に行った生徒からの情報を授業選択時の参考にしている。

就業体験先は現在 2 ヶ所であり、幼稚園教諭志望者も多いため、平成 2 4 年度からは、進路部によるインターンシップ実習先の幼稚園を就業体験先に加える予定である。なお、幼稚園は夏季休業中の実習ができないため、1 学期末に実施を予定している。

しかし、まだ体制的には連携とまではいかず、今後の課題でもある。

(3) 指導実践例

【実践例 1】 外部講師による授業

事前学習・・・外部講師による 4 時間の講義・演習 (成田国際福祉専門学校)

《社会福祉士・介護福祉士・保育士による講義・演習》

①社会福祉全般について（2時間）		【高齢者疑似体験の様子】 
ねらい	「高齢者を理解する」「福祉に求められるもの」について学ぶ。	
実践内容	「講義及び演習」 ・高齢者を理解するために、基礎知識を得る。 「基礎知識」→高齢者の身体的特徴について学ぶ。（講義） 「相手を知る」→高齢者疑似体験（演習） ・コミュニケーション能力の育成（演習）	・校内の階段や自動販売機等を利用しての高齢者疑似体験
②高齢者福祉について（1時間）		【外部講師による授業風景】 
ねらい	「福祉の仕事・求められる資質」について学ぶ。	
実践内容	「介護福祉士による講義・演習」 ・前時の疑似体験をもとに、生徒の意見交換。 ・演習を交えて、実践的コミュニケーションのとり方を学ぶ。（演習） ・就業体験に行く際の注意事項（講義）	
③保育分野について（1時間）		【七夕飾り】 
ねらい	「保育の仕事について」「子どもへの接し方やコミュニケーション手段」について学ぶ。 「児童文化財の製作」を体験する。	
実践内容	・保育の仕事を通して、子どもや保護者への接し方について学ぶ。（講義） ・七夕飾りの製作（演習）	

外部講師による4時間の講義・演習を終えての生徒の感想(生徒が書いたとおりの文面です。)

テーマ	「福祉の仕事に求められるもの」「コミュニケーションの大切さ」
<p>・人と人のコミュニケーションは簡単なようで難しく、自分の知らないところで相手を傷つけてしまったり、気持ちをわかってあげられていないところもあって、人はみんなそれぞれ考え方が違うから、その人に合わせての対応をしたり、言葉かけをしたりヒューマンサービスの仕事は大変だと思った。</p> <p>でも、その分やりがいのある仕事でもあり、何より傾聴ということが大切で、この仕事だけではなく、社会生活のすべての分野で大切なことだと思った。</p>	

- ・ヒューマンサービスで一番大切なことは、コミュニケーションかなと思いました。やはり、ヒューマンサービスは人と関わる仕事だからコミュニケーションが取れないとだめなんだなって思いました。だから、将来保育士になりたいと思っている私は、今からコミュニケーション力をつけなければいけないと思いました。これから、いろいろな人と積極的にコミュニケーションをとろうと思います。
- ・ヒューマンサービスの仕事は主に人との関わりだから、コミュニケーションが軸になっているのかなと思った。今まで、そのような職業のことはあまり知らなかったから、講師の先生の話を受けて勉強になったし、自分のためになったと思う。すごく繊細な職業だと思ふし、大変だけどやりがいのある仕事だと思ふ。
- ・私は、将来看護師になりたいと思っています。職種は違っても、人と人とのつながりは心が通っていることが大切だと思います。それがコミュニケーション手段である。言葉だけではなく、身振りや手振り、視線や表情とか普段意識していなかったところも重要だと授業を受けて感じました。

【実践例2】 事前学習・準備

ア 校内事前説明会

予め担当教諭が保育所・高齢者施設に出向き、打ち合わせを行う。その後、施設毎に資料をいただき、生徒に配布して事前学習を行う。

《名札・おもちゃの製作》

各施設にて使用する名札やプレゼント用のおもちゃを製作する。

【名札】



【パタパタ鳥】

プレゼント用



イ 校外事前説明会

1学期末答案返却最終日に、生徒が各就業体験先に伺い、事前説明会を実施。担当者からの施設概要説明及び施設見学の後、質疑応答を行う。生徒が意欲的に質問した内容や説明会後の感想は下記のとおり。

質問内容及び説明会終了後の生徒の感想（一部抜粋）	
<p>《根郷保育園》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがとてもかわいくて、早く実習に行きたくなった。 ・怪我をさせてしまったらどうしようか心配である。 ・ワクワクするが、子どもたちの反応が気になる。 	<p>《ケアセンターそよ風》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方々とのコミュニケーションをどうとったらよいか心配。 ・話題を何にすればよいか不安。 ・私に何ができるのかと考えてしまう。 ・入浴補助はどのくらいまでやるのか。 ・どのように接したらよいか不安。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 沢山の子どもたちに話しかけられて、全員に対応できない時はどうしたらよいか。 ・ 保育士の仕事で一番大切なことは何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフの方々の明るさに、少しホッとて、頑張ろうと思った。 ・ 早く実習に行きたくなった。
---	--

【実践例3】 **就業体験** (平成22年7月26日～29日実施, 1人2日間)

高齢者施設「そよ風」

保育園「佐倉市立根郷保育園」

----- 日 程 -----

8:15	出勤
9:00～	送迎・出迎え 健康観察・入浴補助
11:30～	昼食準備 昼食介助の手伝い
13:00～	休憩(昼食) (実習日誌の記入)
14:00～	レクリエーション
16:00～	見送り

----- 日 程 -----

8:15	出勤
8:30～	保育開始・健康観察
9:50頃	2歳児までおやつ 年齢別の活動・遊び
11:30～	昼食準備・手伝い
13:00～	午睡・掃除・打ち合わせ (実習日誌の記入)
15:00～	おやつ
16:30～	お迎え・時間外保育

【そよ風の様子】

【 根郷保育園の様子 】

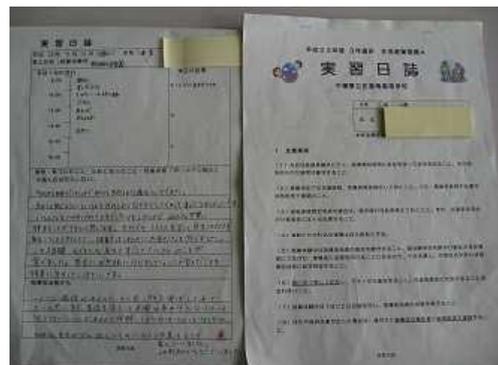


実習日誌・実習レポート

*そよ風, 根郷保育園とも実習日誌の記入の時間をとっていただき, 感想等も記入する。
就業体験実習終了後, 各施設に提出し, 担当者・責任者からのコメントを記入していただいた後, 返却される。

【実習レポート】

【実習日誌】



【実践例4】 就業体験のまとめ

グループワーク ＊3～4人グループ

体験内容と、生徒個々の気づきを中心にまとめる。高齢者施設では、施設の特徴や内容を中心とし、保育園では、年齢ごとの保育内容の違い・特徴や子どもの成長などを中心に模造紙にまとめる。

掲示することにより、実習を振り返ることができ、生徒の達成感も得られるだけでなく、他の生徒にもよい波及効果となる。

【掲示物の製作】



個人作品の製作 ＊2種類製作し、各自1作品贈る。

おもちゃや絵本を手作りし、2学期末に就業体験のお礼を兼ねて贈った。

特に、キューブパズルは好評で、保育園では「ぜひ活用し、保護者参観等で作ってみたい」との感想をいただいた。

【絵本・キューブパズル】



＊高齢者施設向けと
保育所向けに工夫
してある。

【実践例5】 就業体験発表会

ア 校内発表会

授業や就業体験でお世話になった講師の方々や実習施設の方に案内状を出し、発表会に参加していただき開催した。参加者からも好評であった。

就業体験に行く前の生徒は、不安に思っていたが、体験を通して様々なことを学ぶことができたようである。自信を持って発表する姿からは、生徒一人ひとりの成長がうかがえた。

【校内発表会の様子】



イ 校外発表会

【成田福祉フォーラム高校生の部にて発表】

福祉活動を実践する高校生の代表として、本校の生徒が福祉体験発表を行う機会を得た。中・高の福祉推進校の生徒や地域の方々、福祉関係者等多数出席する中、「今私にできること」という題で活動を報告した。大変高い評価をいただいたことは、発表生徒にとっても、共に就業体験を実施した生徒にとっても自信につながった。

【校外発表会の様子】



【福祉フォーラムで発表した生徒の感想】

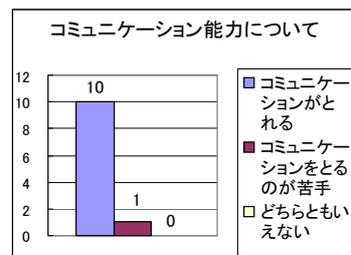
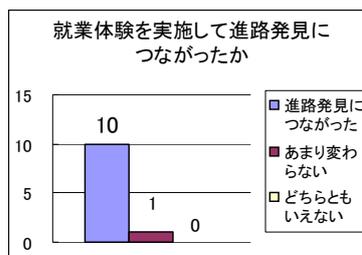
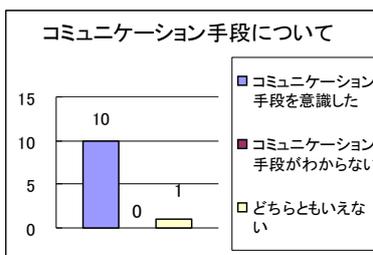
今まで人前で発表するのは、中学校までは何回かあったが、高校生になって皆の前で発表すると先生から聞いたときは、正直言って恥ずかしく断りたい気分だった。しかし、自分の発表後に大きな拍手を頂き、自分に自信が持てました。

発表することにより、自分自身の思いを伝える事や、相手がどのように受け止めてくれているのか、拍手の中に気持ちを伝えるコミュニケーションが沢山詰まっている事を実感しました。私は将来看護師を目指しているので、この経験を生かし「体験は宝だ」と心に刻み、頑張っていこうと思いました。

(4) 学習後における意識調査及び考察

就業体験・レポート作成・校内発表会の後、生徒に事後アンケートを実施した。

【アンケート結果調査】



就業体験実施後のアンケート結果から、就業体験に行く前は、高齢者や子どもたちに対してどのように接したらよいか不安に思っていた生徒も、コミュニケーションをとるのが苦手だと思っていた生徒も、ほとんどの生徒がコミュニケーション手段を自分なりに考えて、コミュニケーションが取れるようになったと答えている。

これは、生徒個々が意識し、体験を通して学んだ成果であると考えている。活動してこそ自信につながった。進路選択の中で今までは、「やってみたい」「とりあえず」のような気持ちで進路を考えていた生徒が、就業体験後には「是非、保育士を目指したい」「絶対に介護福祉士になりたい」「保育士の仕事は、想像以上に大変で、私は別の進路を考える」など、就業体験が自己を見つめる機会となり、確かな進路選択への大きな一歩となった。

(5) 考察

本校で実施している「生活産業基礎」では、授業から進路を意識させ、進路の実現を目指すことと、新学習指導要領に示されているように、「言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成」に重点を置き、研究を進めてきた。

授業を選択する際に、生徒には進路を意識して選択するように伝えている。そのため、ほとんどの生徒は目標を持って授業を選択しているが、中には目的意識もなく選択する生徒もいるのが実情である。

選択者にアンケートを取ってみると、授業に対する意識も高く、将来の職業を考えての選択者が多かったが、就業体験の事前指導では不安になったり、コミュニケーションをどうとったらよいかわからず、コミュニケーションをとることが苦手な生徒も多く見られた。

夏季休業中に実施する就業体験に行く前に、このような問題をいかに克服していくか、各自がどのように意識して取り組むかが大きな課題となった。就業体験やその準備を進め、様々な実践を試み、一定の成果を得た。ここで、2つにまとめてみる。

1つ目は、外部講師による授業を多く取り入れて、基礎基本を学ぶことが大変有効であった点である。まず、生徒は、外部講師から福祉全般について学び、その後、高齢者疑似体験や講義・演習を通して、福祉に求められるものを肌で感じながら、活動から学ぶことができた。

今までは全てやってあげることがボランティアだと思っていた生徒が多く見られたが、「相手を知り・援助する」ことを学んだことで、生徒自身で福祉に求められるものは何かを考えることができるようになり、基礎基本の定着も見られた。

2つ目は、就業体験は、校内の授業だけでは学ぶことのできない内容を伴うことから、生徒のコミュニケーション能力を高める上で、大変有効であった点である。その裏付けとして、最後に生徒がまとめたプリントから、代表的な考察を体験した施設ごとに一つずつ紹介する。

《高齢者施設で体験した生徒の考察より》

施設での1日の始まりは「挨拶」から始まり、健康観察や入浴補助、昼食準備やレクリエーションなど、すべての活動は声かけがないと始まらない。授業中の講義では、理論的にはわかるが、就業体験では、身をもって理解することができる。コミュニケーション能力は、人と人とのふれあいによって育まれる。また、高齢者施設ならではの人と人とのふれあいの中で、感じることでできる体験が大きく影響していると考えられる。

《保育園で体験した生徒の考察より》

先生方との情報交換の中で「たくさん抱っこしてあげましょう」「子どもたちの目線に」などの具体的アドバイスによって、スキンシップの大切さを体験から学んだ。保護者との連絡帳でのやりとりでは、会話の他に文章で伝えるコミュニケーションの重要性を学んだ。体験では、ただ一緒に遊ぶだけではなく、家庭の代わりに役割を担うことをしっかり理解できた。子どもたち一人ひとりへの対応の違いなどを実感し理解することができた。

以上のような生徒の考察から、体験学習は、他者とのかかわる力を高めるとともに、コミュニケーション能力を育成する上で、最適な学習方法であるといえよう。

高齢者や子どもたちとのふれあいによって、今まで不安に思っていたことが徐々になくなり、逆に高齢者の方々や子どもたちの笑顔で沢山のパワーをもらえたと話す生徒が多く見られた。また、普段見えない部分の仕事を知るよい機会となり、高齢者や子どもを相手にする職業につ

いて、より具体的にとらえることができたようである。

高齢者施設においては、利用者を迎えるまでの準備や掃除、細かいところまでの配慮や危険防止対策など、改めて仕事の重みを実感したようであった。また、保育園においては、食物アレルギーに対する対応や対策、様々な安全対策などがあり、大切な命を預かる現場のきめ細かな配慮等を知ることができたようである。それぞれの仕事にやりがいと責任を感じた生徒が多く、中には自分の将来の仕事として真剣に考え、改めて進路を見つめ直す機会となった生徒もいた。これまで述べてきたように、十分な事前学習を行った上での体験学習は、生徒一人ひとりの心に響く力があり、とても効果があった。

(6) 今後の課題と展望

本校の「生活産業基礎」は、普通科（文系）3年生の選択科目であり、希望者のみが履修できる授業である。1・2年次の「家庭総合」での学びを基盤に、専門教科「家庭」の科目として位置づけられているが、実際に選択できる生徒は限られている。また、本校の生徒は、1・2年次の段階ではなかなか進路を意識することができず、そのうち進路を選択する3年生の時期を迎えている。

本研究の成果をふまえると、多くの生徒が早い段階で、体験学習を取り入れた家庭科の授業によって、具体的に人生を展望するとともに、よりよい進路選択の一助となって欲しい。そこで、今後は、効果的な体験学習を「家庭総合」にも取り入れて、授業の充実を図っていきたい。

体験学習を取り入れた「家庭総合」の授業展開

本校の「家庭総合」では、1年次に高齢者分野を学習する。そこで、「生活産業基礎」で実施している、外部講師による体験学習を取り入れることにより、相互の授業向上を目指す。

体験学習を取り入れるにあたっては、生徒がコミュニケーションの大切さを実感するとともに、各自のコミュニケーション能力の向上を目指すこともねらいの一つである。既に、一部の体験学習については、実施済みなので、ここで報告する。

「福祉体験学習」プログラムへの参加 **【参考資料①】**

- ・対象は1学年5クラス、各授業時に1時間ずつ実施
- ・「生活産業基礎」で実施している、成田国際福祉専門学校の講師による体験学習を「家庭総合」の授業で展開できないかどうか打診したところ、快諾していただいた。
- ・地域ごとに開催している「福祉体験学習」の位置づけで行った。各授業時に講師を派遣していただき、高齢者疑似体験と車椅子体験を50分授業で実施した。クラスを2分割し、高齢者疑似体験班と車椅子体験班に分かれて体験した。

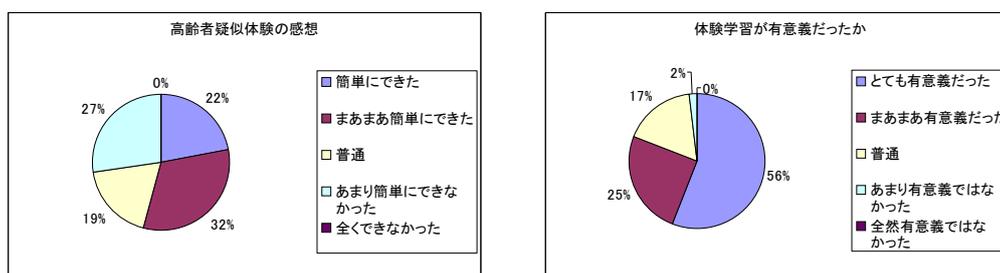
【福祉体験学習の様子】



実施後の生徒の感想【抜粋】

- ・高齢者はこんなに疲れるんだ，うちのおばあちゃんにも優しくしてあげたいと思った。
- ・相手の気持ちを考えるようになった。
- ・車椅子体験をしてみて，介護する側も，される側も，信頼関係が必要だと思った。車椅子は簡単に乗れるのかと思っていた自分が恥ずかしくなった。
- ・いずれ私も高齢者になると思うと，今の自分が元気でいられることがありがたいと感じた。だからこそ，優しくしてあげたいと思った。

【1 学年家庭総合にて福祉体験学習実施後の意識調査】



体験後のアンケート結果から，体験が有意義であったと考える生徒がほとんどである。感想からもわかるように，体験学習を実施して気付くことも多く，コミュニケーションの大切さを知るきっかけとなったようである。

今回は，クラスを2グループに分けての体験である。さらに，多くの体験学習を取り入れることができるようにしていきたい。

4 終わりに

平成17年度から，選択授業で開始された「生活産業基礎」は当初，「衣・食・ヒューマン分野」を総合的に扱い，3年生での進路を見据えての授業展開であった。外部講師を活用した授業は，生徒の興味関心も高く，進路（職業）を考える上で大きな道標となった。

現在は，より専門性を高めるために分野を大きく2つに分け，さらに外部講師を増やし，生徒が意欲的に学習できる環境になった。

「生活産業基礎」の位置づけは，学校によって様々ではあるが，「家庭総合」で学んだことを生かして，生徒は「生活産業基礎」にも興味を持つ。生徒が将来の進路を見据え，家庭科としての専門性を高め，また生徒が主体的に活動できるように授業の工夫をした。生徒は，授業の内容を将来の進路にどう結び付けていくか考えているので，私自身もやりがいを感じている。

先にも述べたが，今後は外部講師による授業を「家庭総合」にも積極的に取り入れ，体験を通して多くの生徒が主体的に学習する能力を養えるようにしたい。

これからの社会は，今まで以上にコミュニケーション能力が大きく求められる。家庭科の体験学習を通して，生活における様々な場面，様々な人とのふれあいを想定しながら，生徒がコミュニケーション能力を身につけ，そして，将来を見据えた進路選択につなげていくことができるようにさらに研鑽を積んでいきたい。

【参考資料①】



① 趣 旨

福祉・介護人材確保について、県を中心に各福祉団体による福祉人材の安定的な確保のための取り組みがなされているところであります。当協議会においては、これからの時代を担う世代に介護の重要性を理解していただくため、介護福祉士養成校の教員が実施する高齢(障害)者疑似体験学習、訪問説明相談会及び施設訪問員学会を企画致しました。

② 実施内容

当体験学習に費用はかかりません

実施項目	対象者	主な内容	実施時間
1 高齢(障害)者疑似体験	生徒	誰かが何事かをする様子はどのような文脈なのか(喜怒哀楽)、視覚(顔色)や身体動作を通じての理解度を高め、介護の重要性について学習する。	50分 または 100分
2 乗椅子体験	生徒	身近な使用器具(乗椅子)の使用法と当外性を把握する。しかし、このほか福祉用具は、高齢者(介護者)の認知や運動能力低下、事故や事故の予防に役立つ。事故を予防する際には、視覚(顔色)を安心して生活できるような様々な知識と技能が必要であることを学習する。	50分 または 100分
3 訪問説明相談会	生徒	各学校に訪問し、生徒に対し介護福祉士の仕事(家と施設での役割)や福利制度、奨学金等の説明を実施する。	50分
4 施設訪問員学会	教員	先生を対象として、老人福祉施設等を構成し、教員と訪問する見学会を実施する。老人福祉施設等の介護現場を訪問し、現場での介護職員や施設長等の方々との意見交換を行う。	3時間

③ 実施場所

1 2 3 各学校 4 各施設

④ 申込期限

実施希望日より1ヶ月前程度までにご相談下さい。

⑤ 申込方法

別紙の申込書をご確認の上、各地域担当校へ直接お申込下さい。

⑥ 地域担当校

地域	担当校	担当校	生徒	時間	担当校
1 千葉	千葉市	千葉市 千葉市立中央福祉センター 千葉市立中央福祉センター 千葉市立中央福祉センター 千葉市立中央福祉センター	7 学年	全学年 全学年 全学年 全学年	千葉市立中央福祉センター 千葉市立中央福祉センター 千葉市立中央福祉センター 千葉市立中央福祉センター
2 船橋	船橋市	船橋市立中央福祉センター 船橋市立中央福祉センター 船橋市立中央福祉センター 船橋市立中央福祉センター	8 学年	全学年 全学年 全学年 全学年	船橋市立中央福祉センター 船橋市立中央福祉センター 船橋市立中央福祉センター 船橋市立中央福祉センター
3 浦安	浦安市	浦安市立中央福祉センター 浦安市立中央福祉センター 浦安市立中央福祉センター 浦安市立中央福祉センター	9 学年	全学年 全学年 全学年 全学年	浦安市立中央福祉センター 浦安市立中央福祉センター 浦安市立中央福祉センター 浦安市立中央福祉センター
4 江戸川	江戸川区	江戸川区立中央福祉センター 江戸川区立中央福祉センター 江戸川区立中央福祉センター 江戸川区立中央福祉センター	10 学年	全学年 全学年 全学年 全学年	江戸川区立中央福祉センター 江戸川区立中央福祉センター 江戸川区立中央福祉センター 江戸川区立中央福祉センター
5 習志野	習志野市	習志野市立中央福祉センター 習志野市立中央福祉センター 習志野市立中央福祉センター 習志野市立中央福祉センター	11 学年	全学年 全学年 全学年 全学年	習志野市立中央福祉センター 習志野市立中央福祉センター 習志野市立中央福祉センター 習志野市立中央福祉センター
6 船橋	船橋市	船橋市立中央福祉センター 船橋市立中央福祉センター 船橋市立中央福祉センター 船橋市立中央福祉センター	12 学年	全学年 全学年 全学年 全学年	船橋市立中央福祉センター 船橋市立中央福祉センター 船橋市立中央福祉センター 船橋市立中央福祉センター